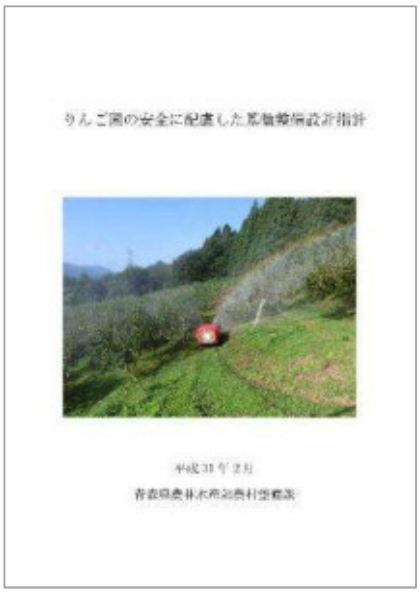
環境公共 通信

第４３号　令和元年９月
発行／環境公共推進会議事務局
〒030-8570 青森市長島 1-1-1
青森県農林水産部農村整備課内
TEL 017(734)9545 FAX 017(734)8153

■最近の話題

りんご園の安全に配慮した基盤整備設計指針を策定しました



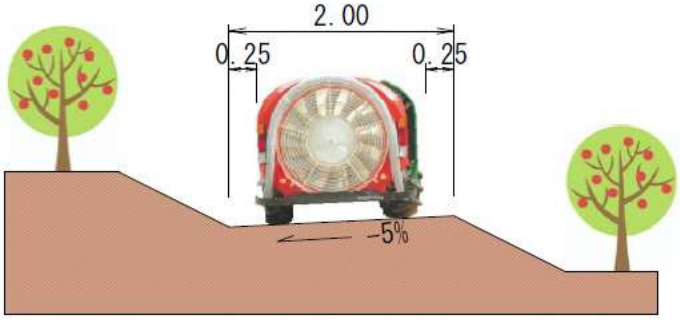
策定した設計指針

青森県では、平成 31 年２月に「りんご園の安全に配慮した基盤整備指針」を策定しました。当県の 2018 年のりんごの生産量は全国１位で国内の生産量の約６割を占めるほか、2017 年の販売額は４年連続で 1,000 億円の大台を超えるなど、一大産地として全国的に知られています。

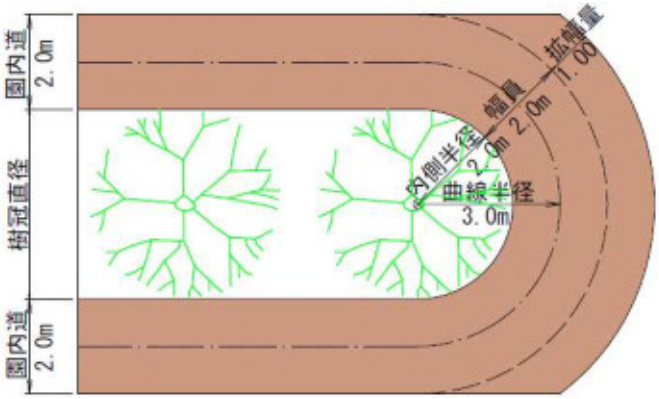
一方で、県内でりんごの生産量の大部分を占める中南管内では、過去１０年間でりんごの防除作業に使用するスピードスプレーヤでの事故が17%と農業機械による事故では最も多くなっています。その原因の多くは、スピードスプレーヤが横転し、農家がその下敷きになるケースで、特に山間部にある傾斜のきついりんご園では事故発生の危険性が高くなっています。中南管内では、急傾斜といわれる 15°以上のりんご園が 1,178 ヘクタールあります。

このため、県では、実際に防除作業を行うりんご農家のほか、ＪＡ、農業機械メーカー、関係市町村等で構成する検討会を組織し、傾斜のきついりんご園でもスピードスプレーヤの事故を未然に防止するために、農業者自らが整備可能な設計指針として作成しました。具体的には、既存のりんご園で、できるだけ現況の園内道をそのまま利用し、樹木伐採が最小限にして整備できるよう、園内道の幅員、勾配、曲率半径等の基準値を設定しました。また、基準値の適用に当たっては解説や設定根拠についても示しており、それぞれの地形条件に合った整備が可能となるようにしています。

本指針を活用したりんご園の整備により、安全性向上のほか、高齢化や担い手不足への対応として、果樹農業への新規参入や園地集積による規模拡大に繋がることを期待しています。



園内道（横園路）標準横断図



園内道旋回部 平面図

■「環境公共」事例紹介

トマト＆オニオンプロジェクト（東青の環境公共推進プロジェクト）

1　概要

令和元年７月27日（土）に、地域の子供と保護者23名を対象とした環境公共推進プロジェクト「トマト＆オニオンプロジェクト」を青森市と蓬田村で行いました。本イベントは、農山漁村での様々な体験を通して、あおもりのおいしい農産物が、地域の人の手によって守られ、次の世代に引き継がれていることの理解を県民に深めていただくことを目的に、たまねぎ・ミニトマトの収穫体験、環境公共学習等を東青地域県民局地域農林水産部が主催して行ったものです。

2　内容

たまねぎの収穫体験は、奥内たまねぎ生産組合のたまねぎほ場で行いました。ここでは、生産組合の西澤代表によるたまねぎの栽培状況や収穫方法の説明のほか、県民局担当者から栽培に必要となる「水」の循環について説明を行いました。子供たちは普段使っている水が循環していることを知り、「ごみ拾いをして水をきれいにしたい。」と言っていました。

たまねぎの収穫体験

ミニトマトの収穫体験は、蓬田村のビニールハウスで行いました。ここでは、蓬田村担当者や生産農家の久慈氏から収穫方法などについて説明を受けた後、収穫体験をしました。今回収穫したミニトマトはキャロル10という品種で、果実は肉厚であり、果皮は薄く口に残らず、高糖度という特徴があり、収穫体験中にミニトマトを試食した参加者は「おいしい！」と笑顔で言っていました。

ミニトマトの収穫体験

3　イベントを終えて

今回のイベントで、子供たちには収穫体験を楽しみながら水の大切さを理解していただけたと思います。保護者からは「子供に貴重な体験をさせることができる良い機会となった。また開催してほしい。」といった称賛の声が多数ありました。

このように、青森県では、県民の皆さまに「環境公共」を知っていただけるよう様々なイベントを開催していますので、みなさんのご参加をお待ちしています。

集合写真

4　その他

今回のイベントでたまねぎの収穫体験を行った青森市奥内地区では、H28に「農地耕作条件改善事業」で暗渠排水工事を実施したことを契機にたまねぎ栽培を開始しました。

イベントでご協力いただいた奥内たまねぎ生産組合では、県、市、ＪＡ等の関係機関と連携し、取組拡大に向け、試験栽培を行っています。また、県が主催するたまねぎ栽培先進地研修に参加し見聞を広めるなど、意欲的な動きが見られ、県も引き続き支援していく予定です。

たまねぎ栽培先進地研修（岩手県）

「環境公共」HP　http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/kankyoukoukyou.html